

# ひだご坊

No.303  
2014年10月20日

発行 真宗大谷派 高山教務所  
発行者 大町慶華  
〒506-0857 高山市鉄砲町6番地  
☎(0577)32-0776  
\*毎月20日発行 50,000部  
三市一郡無料配布  
印刷 山都印刷株式会社

## 念じられ 照らされて

### 私が伝えたい戦争

中屋 とく (談)



〔略歴〕  
一九二一年、高山市生まれ。九十三歳。赤十字病院勤務の際、救護班として戦争を経験。終戦後は岩滝診療所に勤める。高山二組圓徳寺門徒。

一九四五(昭和二十)年八月六日、広島に投下された原子爆弾によって生じたキノコ雲は、岩国市(山口県)で一年近く看護隊として働いていた私にもはつきりと見ることができました。広島から立ちのぼる真つ黒な雲は、爆弾の影響なのか、町が焼かれた影響なのか、二、三日は空を覆い尽くしていた記憶があります。

日本の敗戦をラジオ放送で聞いた後、「命があるうちに、故郷に帰りなさい」という上司の命令によって、私は汽車に乗りました。汽車から見える景色は、今どのあたりを走っているのかということも分からなくなるくらい、限りなく焼野原が続きました。いつまでも

も変わることはない景色に加え、血の匂い、ものが焼けた匂いが立ち込める車内は、心身の疲れを更に増幅させました。私はほんの少しの手荷物とともに、高山に帰りました。母親は、突然帰ってきた私の顔を見ると、声も出せないくらい本当に驚いた様子でした。一年に満たない期間でしたが、久しぶりに会う母は、とても年老いたように感じました。日赤で看護婦として勤務していた二十二歳の娘(私)が急に戦地に行かなくてはならないということ、また、息子(私の弟)二人も志願兵として戦争に参加したのですから、母の心労は相当なものだったのでないかと思えます。

戦火に焼かれることになかった高山は本当に命の心配をしなければならぬ。これまでの日々とは、天と地のような差を感じ、しばらくは何も手につかない状態でした。戦争は終わったとは言いつつも、未だに当時のことを思い出して眠れないことや、向かいの山を見て、急に空を埋め尽くすほどのアメリカ軍の飛行機が編隊を組んで飛来する錯覚に陥ることもあります。

私自身、戦争を通して悲しむこと、苦しむことがたくさんありました。アメリカとは対照に、ぼろぼろの戦闘機の乗り込み口の外側から二度と出られないようにネジを打ち込まれ、片道の燃料だけを与えられて「国のために」と飛び立って行った、私よりも若い男子の姿を見送るたびに、「彼らは戦争で死ぬために生まれてきたのではないのに」、「もうじき私の弟もこのようにして飛び立たなければならぬのか」という思いで胸が締め付けられました。

幸い、私も弟二人も、戦地から故郷に帰ることができましたが、大切な家族を戦争で失う悲しみ、また、無事に帰ったとはいえ、戦争で人を殺してしまったという苦しみを抱え、生きていかなくてはならない辛さはどうほどのものだったろうかと考えずにはおれません。今では、「あの戦争で何百万人が亡くなった」と言われますが、その人、家族、友人、恋人にとっては、大切な一人の命・人生ですから。

お寺の大切な大鐘や仏具も、戦争の道具にするために、みんな持っているかれました。その一人一人の命・人生に寄り添う仏さまの教え、その教えを聞く私たちのお寺の大切なものが、戦争の道具、人の命、未来を奪う道具に使われてしまったのは本当に悲しいことです。今、思えば、アメリカの軍隊も、みんながみんな戦争を望んでいなかった

たものではないうかと思えます。私の働いていた病棟にも、アメリカ軍の飛行機が見えるほどの低い高度で飛来しましたが、病棟と病棟の間に爆弾を落とし、外に干してある洗濯物を機関銃で打っていくのです。当時は「こんなに近くを飛んでいるのに、アメリカ軍の腕前が悪いのかな?」とみんな話していました。本当は誰も殺したくはなかったのではないかと感じます。力の違いだけを見せつけて、「もう降参してくれ」、「もう戦争なんてやめよう」と伝えたかったのではないかと、私は思っています。

戦後七十年を迎えようとする日本では、戦争を体験した年代の方がどんどんいなくなっています。戦争の愚かさ、辛さ、悲しさ、苦しさを思い知った人たちがいなくなったら、日本はまた同じ過ち(戦争)をしてしまうのではないかとこの心配もありません。若い方々には、平和の大切さ・ありがたさを知ってほしい、戦争の愚かさ、悲しさだけは経験してほしくないという心から願っております。

当時を振り返って話をさせていたことは、本当に心が痛くなりますが、伝えていくことも私のひとつの役目だと思っております。

第二次世界大戦中、戦局が悪化してくると物資、特に武器生産に必要な金属資源が不足してきました。それを補うため、一九四二(昭和十六)年、国家総動員法にもとづき金属類回収令が公布されました。翌年になると、全国で大々的な回収が行われはじめました。家庭で使用されていた鍋や釜などの日用品も回収対象になり、寺院、教会、神社なども例外ではなく、寺院の梵鐘や仏具も回収されました。

昭和十七年十一月、戦争協力のため高山市内の寺院は仏具を供出。金属製仏具は高山別院に集められ、高山市仏教会の合同法要が営まれた後、高山駅前広場で引き渡されました。

高山別院の梵鐘は、天明の大鐘(一七八四年)の後に鑄造されたもので、一八七五(明治八)年に別院が焼失した際には、燃え落ちる鐘楼の下に畳を敷いて、破損を防いだものです。そのように守られ、「正覚大音響流十方」(『仏説無量寿経』)とあるように仏法を弘める象徴ともいえる梵鐘は、戦争で人を殺す武器へと姿を変えていくことになりました。

当時の状況として金属類回収令に従わざるを得なかったとはいえ、「兵戈無用」(『仏説無量寿経』)という仏さまの言葉に背くことをしてしまったのです。

宗教トラブル相談窓口(0577-3210763)

たのではないだろうかと思えます。私の働いていた病棟にも、アメリカ軍の飛行機が見えるほどの低い高度で飛来しましたが、病棟と病棟の間に爆弾を落とし、外に干してある洗濯物を機関銃で打っていくのです。当時は「こんなに近くを飛んでいるのに、アメリカ軍の腕前が悪いのかな?」とみんな話していました。本当は誰も殺したくはなかったのではないかと感じます。力の違いだけを見せつけて、「もう降参してくれ」、「もう戦争なんてやめよう」と伝えたかったのではないかと、私は思っています。

戦後七十年を迎えようとする日本では、戦争を体験した年代の方がどんどんいなくなっています。戦争の愚かさ、辛さ、悲しさ、苦しさを思い知った人たちがいなくなったら、日本はまた同じ過ち(戦争)をしまうのではないかとこの心配もありません。若い方々には、平和の大切さ・ありがたさを知ってほしい、戦争の愚かさ、悲しさだけは経験してほしくないという心から願っております。

昔から「一年は報恩講にはじまって、報恩講に終わる」と言われてきました。報恩講で、改めて親鸞聖人の教えに聞きたずねるといふ生活が大切にされてきたんですね。ご坊さまや、お手次のお寺の「報恩講」にはぜひとも足を運んで、一緒にお参りしましょう。

お勤めする法要で、我々真宗門徒にとっても大切な場ですね。お参りの際の服装は、特に決められた格好があるわけはありませんが、「報恩講」は親鸞聖人のご法事ですから、普段着ではなく、少し改まった格好を意識するべきでしょう。男性は正装にネクタイを、女性はそれに準じた服装が望ましいです。また、お持ちのかたは「肩衣」を着用ください。

持参するものは「念珠」、そして「志(御仏前)」です。皆さまからいただいた志は、その都度、法座を運営する経費に充てられます。皆さまの取り持ちによつて法を開かれています。皆さまの取り持ちによつて法を開かれています。皆さまの取り持ちによつて法を開かれています。

問 報恩講は法要の格好で、何を着てもお参りしていいのでしょうか。

答 お勤めする法要で、我々真宗門徒にとっても大切な場ですね。お参りの際の服装は、特に決められた格好があるわけはありませんが、「報恩講」は親鸞聖人のご法事ですから、普段着ではなく、少し改まった格好を意識するべきでしょう。男性は正装にネクタイを、女性はそれに準じた服装が望ましいです。また、お持ちのかたは「肩衣」を着用ください。

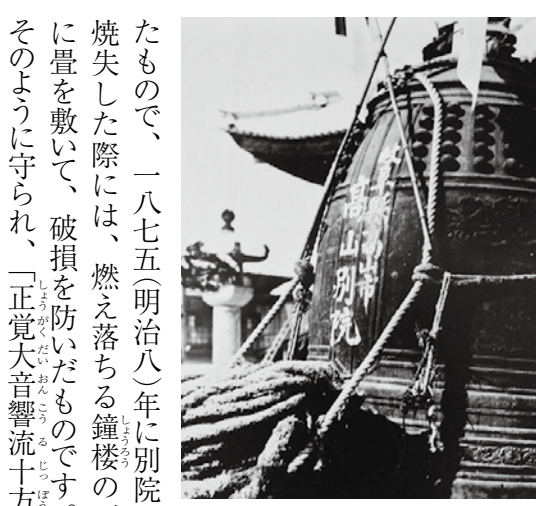
【ひだご坊】は毎月20日に発行されます。

## 武器になった仏具



高山駅前にて

第二次世界大戦中、戦局が悪化してくると物資、特に武器生産に必要な金属資源が不足してきました。それを補うため、一九四二(昭和十六)年、国家総動員法にもとづき金属類回収令が公布されました。翌年になると、全国で大々的な回収が行われはじめました。家庭で使用されていた鍋や釜などの日用品も回収対象になり、寺院、教会、神社なども例外ではなく、寺院の梵鐘や仏具も回収されました。



鐘楼から降ろされた別院の大鐘

たもので、一八七五(明治八)年に別院が焼失した際には、燃え落ちる鐘楼の下に畳を敷いて、破損を防いだものです。そのように守られ、「正覚大音響流十方」(『仏説無量寿経』)とあるように仏法を弘める象徴ともいえる梵鐘は、戦争で人を殺す武器へと姿を変えていくことになりました。

当時の状況として金属類回収令に従わざるを得なかったとはいえ、「兵戈無用」(『仏説無量寿経』)という仏さまの言葉に背くことをしてしまったのです。



# ひだご坊 報恩講

親鸞聖人がいただかれた  
お念仏の教えに会う

定例法座・法話(午後1時から) ○10月21日(火)：藤守頼章氏「憶念寺」 ○10月27日(月)：三本昌之氏「蓮徳寺」 ○10月28日(火)：光本智見氏「南春寺」 ○11月11日(火)：大町慶華輪番 ○11月13日(木)：佐藤義晃氏「了徳寺」

10月 31日 (金)	午後 7時	ご坊報恩講の夕べ <b>沖縄の響</b> 非戦・平和の願い
11月 1日 (土)	午後 1時 30分	しょたいや <b>初逮夜</b> 音楽法要 講師 石川 正生 氏
2日 (日)	午前 7時	じんじょう あさじ <b>晨朝(お朝事)</b> 法話 三島 多聞 氏
	午前 10時	にっ ちゅう <b>日中</b> ぜん び もん と <b>全飛門徒</b> 物故者追弔会
	午後 1時 30分	おおたいや <b>大逮夜</b>
	午後 6時	ご でんしょう <b>御伝鈔拝読</b> 第33回 別院真宗公開講座 講師 石川 正生 氏
3日 (月)	午前 7時	じんじょう あさじ <b>晨朝(お朝事)</b> 法話 大町慶華輪番
	午前 10時	き きょうしき <b>帰敬式(9時)</b> ほう とく え <b>報徳会</b> さい こん えい たい きょう <b>再建永代経</b>
	午後 1時 30分	まんにつちゅう <b>満日中</b>


ご坊報恩講の夕べ  
**「沖縄の響」**  
映像と音楽による  
沖縄の響きから  
非戦平和のメッセージを  
心に刻みます

～非戦・平和の願い～

第一部  
沖縄戦記録フィルム  
『軍隊がいた島』上映

第二部  
大工哲弘 島唄コンサート

**10月31日(金)夜7時**  
会場 高山別院本堂  
コンサートチケット  
大人1,000円 (高校生以下無料)



大工哲弘 (だいくてつひろ)  
沖縄県無形文化財(八重山民謡)  
保持者で、世界で活躍するミュージ  
シャン。『徹子の部屋』テレビ出演。

**参拝送迎バス**  
11月2日・3日には別院報恩講参拝のためバスを運行します。乗車場所・時間等のお問い合わせ、お申し込みはお手次のお寺へお願いします。

【2日】白川村、荘川町、久々野町、一之宮町、丹生川町、清見町、山田町、下林町  
【3日】朝日町、高根町、下呂市、国府町、飛騨市

**お 齋** 庫裡ホール  
期 日 11月2日(日)・3日(月)昼  
お齋料 1,500円

**ご坊名物大根汁(無料)**  
期 日 11月1日(土)～3日(月)

**フリーマーケット**  
期 日 11月1日(土)～3日(月)

**抹茶接待(無料)** 庫裡御殿  
日 時 11月1日(土)  
午前11時～午後3時  
主 催 表千家 二木社中

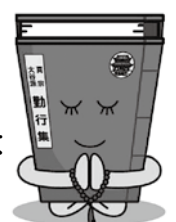
**玉翠会書道展** 庫裡ホール  
期 日 10月25日(土)・26日(日)  
午前9時～

**お浚え**  
報恩講翌日のお朝事です。ぜひお参りください。  
日 時 11月4日(火)  
午前7時～

**子ども報恩講**  
日時 **11月8日(土)**  
午前10時～午後3時頃  
※昼食はこちらで用意いたします。


内 容 おつとめ、作品展表彰式、  
かみしばい、  
おはなし、  
遊びの広場など

持ち物 お念珠、お勤めの本  
参加費 無料



**子ども作品展**  
書道・絵画の作品を  
展示します。

期間 **10月25日(土)**  
～**11月8日(土)**  
会場 高山別院 本堂



**大谷婦人会**  
**高山支部報恩講**  
日時 11月11日(火)  
午後1時から

会場 高山別院 本堂  
講師 大町慶華輪番  
※午後12時よりお斎があ  
ります。(1,000円)

**ご回壇案内**  
〔11月〕  
13日(木)了泉寺「鉄砲町」  
16日(日)浄願寺「丹生川町」